

子育てヒント：【いうことを聞かないこども・かんしゃく】への対応

横浜市こども青少年局 辻本愛子

「こどもがいうことを聞いてくれない！」と、親がイライラすることはたいへん多いと思いますが、ちょっとした工夫でうまくいくこともあります。一人ひとりの子どもの発達のパースに合わせて対応しましょう。そもそもしつけは、親とこどもの笑顔の交換から始まります。こどもはダメダメと否定されるのではなく、励まされ、尊重されていると感じることによって、親のいうことをよくきき、自ら学んでいくようになります。

こどもへの声かけは、短く、穏やかに、具体的に、身振りや実物を利用して、どんな行動をしたらよいかがわかるようにポジティブな表現で行いましょう。長い話やあいまいな指示をすると、どのようにしたらよいか子どもはわからなくなってしまいます。例：「使わないおもちゃはすぐに箱に片付けなさいっていつも言ってるでしょ、いい加減にしてよ！」

→「おもちゃを箱にかたづけようね」

1歳から4歳ぐらいの子どもがかんしゃくを起こすことはめずらしくありません。こどもの自立心や意思が順調に発達している証拠で、どの子にも普通に現れてくる行動ですから心配はいりません。しかし、親がかんしゃくを静めようとこどもの言いなりになったり、こどもと言い争ったりどなったりするのは避けるべきです。親は次のようなことに注意しながら、対応しましょう。

- ・できるだけ生活のパターンを変えない。何か変更があるときは前もって話しておく。
- ・年齢・発達に合わない難しい課題を与えない。
- ・こどもが欲求をがまんできたとき、穏やかに言葉で欲求を表現できたときには必ずほめる。
- ・激しいかんしゃくの中は（安全を確認して）むしろ無視して少し時間をおき、落ち着いてから穏やかに話しかける。
- ・体罰や暴言はこどもの脳を傷つけてしまう可能性もあるので、百害あって一利なし。

参考「愛の鞭ゼロ作戦」（厚生労働省）

<http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/05/ainomuchizero.pdf>